



こ 小やぎのかんむり

いちかわ さ く こ こうだんしゃ
市川朔久子作 講談社

わたしは万木夏芽、中学三年生。夏休み、父親から遠く離れたくて、山寺のサマーステイに参加することを決めた。ところが参加者は、わたしひとり。そのうえ、母親に置き去りにされた、雷太という五歳の男の子まで現れる。彼の体には、あざや火傷の跡があった。お寺のやさしい大人たちに見守られ、ヤギたちとふれあいながら、わたしたちは、特別な夏を過ごす。父親との関係で悩みを抱えていた夏芽は、このサマーステイで父親に立ち向かう勇気をもらう。

